



2024年11月13日

各 位

会社名 株式会社 博報堂D Yホールディングス
代表者名 代表取締役社長 水島 正幸
(コード番号：2433 東証プライム市場)
問合せ先 IRグループマネージャー 原 大介
(TEL 03-6441-9033)

当社グループにおけるグループ会社再編の検討開始について

当社は、当社グループにおける国内マーケティングビジネスの構造改革の一環として、株式会社博報堂（以下 博報堂）と株式会社博報堂D Yメディアパートナーズ（以下 博報堂D Yメディアパートナーズ）の統合について検討を開始いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 検討の背景と目的

当社は2024年6月に、「従来の“広告会社グループ”の枠を超え、“クリエイティビティ・プラットフォーム”へと進化していく」ことを目標に、新たな中期経営計画（以下 「本中計」）を発表しました。生活者を起点としたクリエイティビティをエッジに、生活者・企業・社会をつなぎ、新たな関係価値を生み出すことで、未来を創造するグループとなることを目指し、本中計の3年間に「マーケティングビジネスの構造改革」「新たな成長オプションの創造」「グローバルビジネスのリモデル」の3つの観点で事業構造変革を進めていくこととしています。

国内における「マーケティングビジネス」では、データ/テクノロジーを活用したフルファネル対応が必須条件になってきています。企業のマーケティングニーズは、生成AIなどのテクノロジーの進化や様々な生活者データの活用が可能になる中、テレビやインターネット、プロモーションによる統合コミュニケーションだけでなく、フルファネルでの設計と実践に変化しています。マスメディアもデジタルメディアと同様の運用型に進化しており、マスメディア・デジタルメディアを活用したマーケティングコミュニケーション機能からコマースやCRMなどのマーケティング実践機能までをデータを活用しながらフルにカバーする、“生活者データ・ドリブン”フルファネルマーケティング機能が重要になります。

企業のこのようなニーズの拡大に対応するためには、よりシームレスな提供機能の強化が重要であることから、博報堂と博報堂D Yメディアパートナーズを統合し、データに基づ

いたフルファネルマーケティングのプランニングやメディア対応機能などのコア機能を新「博報堂」に集約、高度化を推進することとします。また博報堂のフロントラインと博報堂DYメディアパートナーズのメディア対応機能が一体となって活動することで、メディア販売力やメディア企業への提案力の強化も実現します。

これまでも、国内マーケティングビジネス領域については、クライアントニーズや市場環境の変化に合わせて機能強化を行ってきました。株式会社アイレップとデジタル・アドバイジング・コンソーシアム株式会社を統合した株式会社 Hakuodo DY ONE の設立によるデジタルマーケティング領域の競争力の強化、株式会社博報堂テクノロジーズの設立と統合マーケティングプラットフォーム CREATIVITY ENGINE BLOOM の開発の強化など、国内マーケティングビジネスを強固にする基盤づくりに努めてまいりました。博報堂と博報堂DYメディアパートナーズの統合によってフルファネルマーケティング機能が高度化される新「博報堂」は、今後、グループ共通基盤となることも目指します。また、グループの制作領域や専門マーケティングサービス系企業の統合、再編も検討し、さらなる競争力強化と効率化を進めます。

当社グループの各事業会社は今後、それぞれのブランドと専門性を最大限に生かしながら、これらの共通基盤を活用して得意先企業とメディア企業への最適なサービスを提供する、新たなグループ構造へと段階的に進化してまいります。

※ 詳細は「2025年3月期 上期 決算説明会資料」([IR情報 | 博報堂DYホールディングス](#))をご覧ください。

2. 今後の見通し

このたびの博報堂と博報堂DYメディアパートナーズの統合は、2025年4月1日をもって実施することを予定しており、具体的な方法及び内容が決まり次第、あらためてお知らせいたします。なお、業績に与える影響は、グループ内の再編であることから、軽微であると考えております。

以上